

みなさま、お久しぶりです(久しぶりに発行することができました!)。あつという間に2014年、そしてすでに2014年も2ヶ月が過ぎましたが、こちらは(日本人にとっては)常に暑いので、まったく実感ないままに正月を迎え、季節がどんどん過ぎていきます。ハルマッタン(季節風)の砂ほこりを大量に含んだ風に苦しんでいます、活動に力をいれていきたいと思ひます!

Quoi de neuf?▶▶▶ブルキナで行われている国際協力事業について

ブルキナファソは平和で穏やかな国。一方で、国際開発委員会(DAC)が定める人間開発指数では189か国中181位というデータもあり、インフラ、保健、教育等さまざまな課題をかかえています。これら課題解決に向け、世界各国からの支援プロジェクト、国際協力事業が行われています。今回は日本の大学や団体・企業等によって行われている面白い事業を一部ご紹介します。

スポーツ×日ブ交流

ブルキナファソでスポーツといえばサッカー。野球はまだこの国には馴染みがなく、これまで3人の野球隊員が野球普及に向けて、様々な活動に取り組んでいます。そして今回、少年野球チームの選手であるサンボ・ライナイくん(16)がプロ野球チーム高知ファイティングドッグス(FD)と契約を結び、練習生として来日するに。ライナイくんは初代野球隊員がきっかけで野球を始め5年。昨年夏には約2ヶ月間来日し、FDの入団テストを受験。3月から約1年間、プロ野球選手を目指しライナイくんの戦いははじまります。他4名の選手も一緒に来日し、FDのトライアウトに挑戦する予定。1つのスポーツを通し、日ブの絆が深まります!



左)日本の選手から野球道具の贈呈(野球隊員が北海道出身ということで、日本との交流が実現)
右)子どもたちに野球を指導する隊員

農業×女性たちの収入向上

ブルキナファソではシアの実が豊富にとれ、昔から薬として(赤ちゃんのへその緒を切ったあとにも塗られたり、鼻がつまったりときに鼻の穴に詰めたり)、保湿剤として、食材として使われてきました。株式会社ア・ダンスは隊員OGの方が始めたシアバター製品を扱う会社。シアバター石けん等の生産・販売を通じ、ブルキナファソの女性たちの現金収入向上、地位向上を目指しています。シアバター製品は原料のみブルキナファソから来ている、ということも多いですが、ア・ダンスは加工までmade in Burkina Faso! 加工をしているのはエイズ感染またはその影響を受けた女性たちです。パッケージの可愛さ、質の良さだけでなく、女性たちの地位向上にも繋がる石けん・・・自分だけでなく、誰かにプレゼントしたいですね。



左)シアバターを生産する村の女性たち
右)シアバター石けんと石けん作りを行うエイズ対策センターの女性たち

水・衛生分野×コンポストトイレ

ブルキナファソの農村部(市街地でも)では、トイレがなく尿・雑排水がそのまま捨てられているという状況が多くみられます。環境汚染防止として衛生環境の改善を目指し、排泄物を資源として利用する仕組みコンポストトイレの開発・導入に関する研究を北海道大学がおこなっています。トイレの中にはミレット等のもみ殻、菌が入っており、排泄された汚物は分解され、1ヶ月後には堆肥として使えるようになります。このトイレが普及すれば、ハエなどの発生が防げる、ブルキナファソの第一産業である農業にも還元されるという素晴らしい仕組み! 1家庭に1台コンポストトイレ。という日も遠くはないかもしれません。



左)コンポストトイレ
右)トイレの試験的設置にむけた村民への研究説明会の様子

Qu'est-ce que c'est?▶▶▶【ドロティエの楽しみ方】ドロってなあに?

ドロティエ寄り道気分!
詳しい解説付き☆

ブルキナファソでは、ミルという穀物から作られる地酒「ドロ」が毎日のように飲まれています。このドロが売られている周りに、みなで座って飲んでおしゃべり。一つの集会所のように朝から晩まで人が集まるので、その場所をカルティエ(フランス語で「番地」の意味)にちなんで「ドロティエ」と呼んでいます。月曜はナレさんち、火曜と金曜はバリさんち等、日によって売るお家が異なります。というのも、ドロを作るまでには、ミルを乾燥させ発酵させる・・・など3日がかかります。毎日同じお家では出せないのでご近所さんで担当の日を決めているようです。なお、公務員等以外、しっかりとした昼食を食べる習慣がないことが多く(昼にかまどに火をおこすのが大変、代わりにドロを飲み、周りで一緒に売られているピーナッツやヤム手をつまむなど、地域のコミュニケーションの場としてだけでなく、栄養補給の場としてもこのドロティエ文化が村落地域に深く浸透しているのだと思われます。ドロティエに顔を出すだけで、地元の人たちと仲良しに。他のドロティエで会った人に違うドロティエでばったり!ということも多く、ドロティエ仲間がたくさんできました。「Wa ka Wa ka! (おいで、一緒に飲もう!)」と言われたらぜひ立ち寄り、地元の人とおしゃべりを楽しんでみてくださいね。こうしてブルキナの居心地のよい人との距離感がうまれていっているのでしょうか。



あ、ドロティエ発見!
こんな感じで屋根つきの場所に人が集まっていたらドロティエ!

一番奥で大きな壺に入れて売っている。(ドロを作り売るのは女性の仕事)

まずは「gouter(味見)」しなさいと少し差し出される。これは無料!

カラバス(ひょうたんの実をくり抜いた容器)でグイッと飲むとおいしい。

この小さい壺ではかり売ります。小:50 FCFA(約10円) 大:100FCFA(約20円)

(味見で味が気に入れば...)自分の希望のサイズ(値段)を伝える。まずはカラバスを使い置いたらドロを入れる。



一緒にドロを飲めば、地元の人たちとまるで家族のような付き合いに。

ドロティエにはおやつや日常生活に必要なものも売られている。

すでに座って飲んでいる人から「ニコ、ニコ(飲みな)」と差し出されたら、自分のカラバスをもって、相手から受け取って飲みます。

お金を払いましょう。カラバスだけでなくビン(プラスチック容器)に入れて持ち帰ることもできる。

今度はそのドロを壺からカラバスへ移しかえ、そのカラバスを受け取る。



水浴び後の少女。乾季の水浴びほど気持ちよいものはないかもしれない。

クイズ du Burkina

- Q1. ブルキナファソの女性はとってもオシャレ。髪も編み込んだり、カツラをつけたりして、頻りに髪型を変えて楽しんでいます。さて、よく目にする、女性が頭に付けている爪楊枝みたいなもの。(右写真参照)これは何のために付けているのでしょうか?
- Q2. 子どものかわいさは世界共通♪さて、ブルキナファソの子どもたちは、体のある部分をコチヨコチヨとすると、とってもすぐたがり笑います。(右写真参照 ※すぐたごころ、爆笑中)日本ではくすぐる習慣のない、体の「ある部分」とはどこでしょう?



Ensuit?▶▶▶ブルキナファソの季節の行事と過ごし方

© 2014 BURKINA FASO. All rights reserved. 2014年2月28日発行。この雑誌の発行は、ブルキナファソの発展と文化の普及を目的としています。この雑誌の発行には、ブルキナファソの政府や民間企業からの支援が得られました。この雑誌の発行には、ブルキナファソの政府や民間企業からの支援が得られました。この雑誌の発行には、ブルキナファソの政府や民間企業からの支援が得られました。